

## 秋摘み茶生産のための茶園管理及び製茶法

農業研究センター 球磨農業研究所  
担当者：島田雅伸

### 研究のねらい

従来から秋芽は整枝による刈り捨てが多く、一部では秋番茶の生産は行われていたが、品質が悪く、低価格な荒茶であった。

また、近年の荒茶価格の低迷、中国からの緑茶輸入増大により収益の減少が著しくなっている。

そこで、秋摘み茶生産に適応した茶園管理及び製茶法を検討し、製茶機械の稼働率向上と収益の増大を図る。

### 研究の成果

- 1 「やぶきた」で、三番茶を摘採しないで秋摘み茶を生産する場合の二番茶摘採後の茶園管理は、三番茶芽が完全に硬化し、かつ、二番茶摘採後の整枝日から平均気温積算で1400～1500、日数で55日程度の時期（球磨農業研究所では8月20日頃）に二番茶摘採面より+60mmの位置で秋摘み用整枝を行う。
- 2 秋摘み用整枝日から平均気温積算で約1000の時期である、9月下旬～10月上旬に摘採すると良質な秋摘み茶原葉を確保できる。
- 3 秋整枝は秋摘み用整枝位置より-10mmの位置で行うことにより、翌年の一番茶の生育・収量に影響がなく、十分な葉層が確保できる。
- 4 秋摘み茶に適した蒸し時間は、蒸し胴通過が30～60秒程度であり、色沢を重視した蒸し程度とすることで荒茶品質が向上する。
- 5 秋摘み茶を生産することで三番茶の収益減をカバーできるとともに、製茶工場の稼働率を向上させることができる。

### 普及上の留意点

- 1 普通煎茶の秋芽用製茶技術として活用する。
- 2 秋芽の萌芽期～生育期に降水量が少ないと収量が減少するので、かん水等の対策を行い収量確保につとめる。
- 3 秋摘み茶を生産する茶園で秋期防除に使用する農薬は、安全使用基準を考慮して選定する。
- 4 秋芽の伸長が期待できない茶園には適用しない。

表1 秋摘み用整枝位置及び秋整枝位置の検討（翌年の一番茶への影響調査）（平成11年）

秋摘み用整枝位置 (二茶摘採面より)	秋整枝位置 (秋摘み用整枝位置より)	芽数 (本)	芽長 (cm)	葉数 (枚)	百芽重 (g)	出開度 (%)	一番茶収量 (kg/10a)
+ 60 mm	0 mm	70.0	5.2	3.1	35.3	63.6	494
+ 60 mm	- 10 mm	70.5	6.0	3.6	41.0	52.5	578
+ 60 mm	- 20 mm	51.0	4.9	3.1	32.0	61.8	326
+ 80 mm	0 mm	39.5	4.5	2.8	35.2	62.0	278
+ 80 mm	- 10 mm	81.0	6.0	3.3	37.7	60.5	494
+ 80 mm	- 20 mm	50.0	4.6	2.7	34.6	57.0	346

(20×20cm枠摘み、収量は実収)

表2 荒茶品質に及ぼす胴通過時間の影響（平成11年）

胴通過時間	外 観		内 質			合計	市場評価 (円/kg)
	形状	色沢	香気	水色	滋味		
30秒	14	15	14	15	13	71	1,100
60秒	14	15	15	15	14	73	950
80秒	14	12	15	13	15	69	800

各項目20点満点

表3 秋摘み茶製茶試験供試原葉

芽数 (本)	芽長 (cm)	葉数 (枚)	百芽重 (g)	出開度 (%)	秋摘み茶収量 (kg/10a)
32.3	7.2	3.5	64.5	67.1	452

(20×20cm枠摘み、収量は実収)

表4 収益性のシミュレーション(10aあたり)

単位：円

摘採茶期	一番茶収益	二番茶収益	三番茶収益	秋摘み茶収益	合計
一～三番茶	234,277	76,533	44,946		355,756
一～二番茶	234,277	76,533			310,810
一～二番茶 + 秋摘み茶	234,277	76,533		71,416	382,226

収益は荒茶収量×入札単価 シミュレーションに用いた数値はJAの平均値(平成11～13年)  
秋摘み茶の数値は3カ年の試験成績の平均値(平成11～13年)

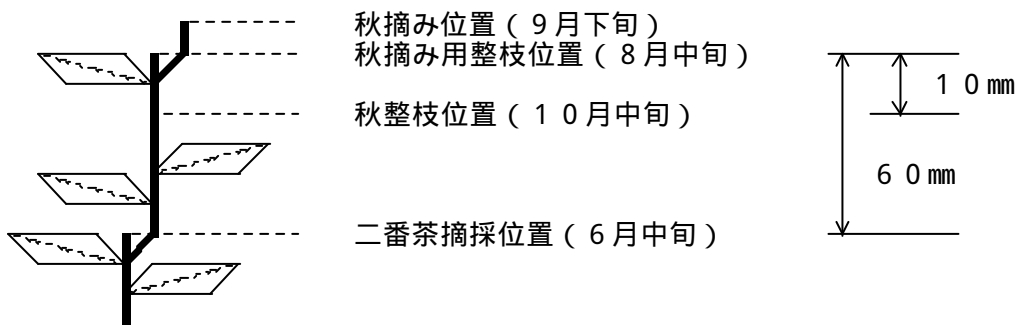


図1 秋摘みの模式図